

会長賞

小学生の部



「世界に一台のぼくの自転車」

館林市立第二小学校

6年 石山 貴紳さん

ぼくは、軟骨無形成症という難病を持って生まれました。骨がのびにくい病気です。六年生の今でも身長は115センチです。手足もとても短く背も低いので、歩くとすぐに疲れたり、知らない子どもに会つと、「あの子チビだね」と言われたりします。それを言われないように、骨がのびる注射を毎日射っています。痛いですが背をのばしたいのがまんして毎日頑張っています。

そんな中でも、ぼくの周りには良い人もすごい人もたくさんいます。

ぼくは、病気のため小さい自転車しか乗れず友達

と同じスピードで走ることができませんでした。

ある日、本屋さんで

「風を切つて走りたい！夢をかなえるバリアフリー自転車」という本を見付けて読んでみると、製作者の堀田健一さんは、体の不自由な人専門にオーダーメイドでその人の体に合った特別な自転車を作ってくれる人なんです。この人ならきつとぼくもみんなと同じスピードで走れる自転車を作ってくれるにちがいないと思い、さっそく連絡して、東京の下町にある工場に会いに行きました。堀田さんは、ものしずかでもやさしそうなおじさんですが、両手足が不自由な人でも普通に乘れる自転車を作つてしまつすごい人です。ぼくの体を見た堀田さんは、「短いだけで、手も足もあつて動くのなら簡単ですよ。」と言って、すぐにぼくの体の色々な所のサイズを計つて設計図を描き始めました。

四ヶ月後、「でき上りました!。」と連絡があり、わくわくしながら取り行くと、堀田さんはニコニコしながら「お待たせしました!さっそく試してみましよう!。」と言って、工場の前の道でドキドキ

ながら自転車をこぐぼくのとなりを一緒に走ってくれました。ビュンビュン進む自転車はとてもそつ快で、「これで友達と一緒にどこにでも行ける!!」と、ぼくの心の目の前がパッと明るくなりました。

堀田さんは、全国のような様々なハンデを持つ人たちのために一台一台乗る人の体の状態に合わせて設計し製作する本当にすごい人です。自分の作った自転車で喜んでくれる人がいて、役に立つ仕事をほこりに思っているそうです。

堀田さんには、たくさんのお愛と勇気と夢と希望をもらいました。ぼくも堀田さんの様に将来、人の役に立つ仕事がしたいと思います。

世界に一台のぼくの宝物の自転車に、今日も力がいっぱい夢と希望を乗せて、ビュンビュン走っていきます。